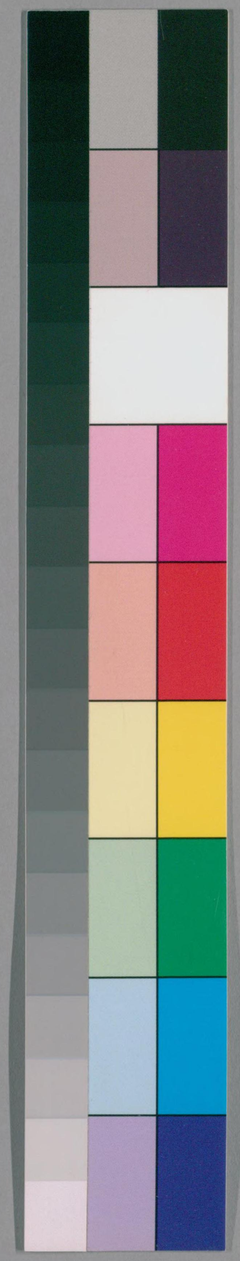
WA 7
196
(2)止

東京圖書館
和文類 門
一九五函 架
四二號 冊
貳
和書門



国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196

ガラス使用

大和物語巻下

先帝の御ときにある御さうしにきたなげなき
わらはありけり
みかど御らんじてみそかにめしてけり。これを人
にもしらせたまはでときどきめしけり。さてのたま
ひける
「ゆめそのことは人にいふなよ」と
のたまはせけるに、わらはいとかしこまりて
とのいりけるに、わらはのいみじうかなしくなく
いひたまへとさてけるは、このおまへにともたちより
さなんのおほしとかゝるけるは、これきこえなる
に、息所にきこえてとひいそぎなるかいへし

三条右大臣乃むすめ侍ひとの中納言まあひたし
め給ひ名ほあひたいくらの事けまて内乃殿上を
なんし給ひ名ほ女ハありん乃んやなりわ名ん心
も遊のまなんいほすりわ名ほおとこも家侍ひ
志竹ひけまはえつゝ心ゆもいさせさわ名ほ志給女
たまもの〻くゆるまく給ハあわしりと
ひとりハこえて称らまさわ名わ
女しの上をなまはよりわけめとえきりほハか
りすみおとこ日こ給ハりしくてなんえ糸らぬ
かくいうきほりわ所わく内ゆもえほいわこぬる
我なんいりゆとかきわなく思竹ふ家とをけまハ
さはくなるうちゆもを乃ハ和りふなわ

わかつましくをなまりたとへん
となんあわきる
志賀乃山こえ乃みちゆいと江といふ所ゆ殿上ア
以家家をいとをしうほくわ給て時くおりし
ましくわいと志ひておりしましてしりゆまう
侍る女ともを見竹時もあわきわおかかさもいと
おりしろう家もいとおりしうなんあわきるとし
こ志うま侍うてきほほぬてにものい道にさそめ
くわほくこそ所ほまりわめてなとしてるさ侍き
たわ名ほ
うわりの三条るさこまほとふわいてる
なくしりやまハあきそうなし義

となんかまはれていふをる
こやくしくそせいひ々係人あ係ひとをよりひて
をこせたわ事る
かくきぬのそこの志る草みかくきて
志るきぬこひきく係しわ々わ
也し女
兄かくきにかくなるわの志るくはハ
なるかるしともおもなゆるかな
これこ屋くしせいひ々係人ハさけなんいせ見し
かりわ々係
光帝の御ときに兼香殿の御息所の御さうしふ
中納言乃君と申ふ人さふらひ々わそれを故兵姫

きやうの家わの男まて一家ときこえて家このみ
給をるこ給兼香殿ハいとちゐきをとになんなわ
々ふらうあわおりしまへ人あわと字給て物なと
乃竹ひかりし々わさわ々係志給かひ此中納言の
君に志のひて称竹ひそめて々わとき〳〵おりし
まして後これ家おさ〳〵とひ給ハさわ々わさ係
此をんなの乃わとよわさて係しわを係
ひと我とくあくたりハてふ御乃くに乃
なまはしかるもぬきまをあわ々係
かくて物もくなくなく屋まひになりてこひ
なわけ係れ兼香殿のまへ乃松ま雪のふわ〳〵
またわけ我おわてかくなんやまをわ々係

こぬひとをまつ乃ミにふるしらゆきれ
きこしうりへまあはぬありひに
とてなん夢(ゆめ)これゆきおとをなとけうひにいひ
てなんこそ海は里をる
夜長(ゆゑなかぶ)門(ふかうしや)家乃かなの乃大納言(たいなんこん)のむすめにすゑ給ひ
をるを其ひ乃おましところまはあらて心さしに
おましききて行かとのこりわなとしてかへる給
て程(かと)久しうおもしまきさわくわかくて乃ちまのへ
里ゝ海かひさしに志うまたまし物ハさなうら
ありやとりこそ聞給てしものなまへるけまは
清海事ゝ
しきりへまのりしなうり第(を)海ゝら

ち利乃ミそぬ家はらふひとなん
とあわけまハ清也しに
くさ海くらしりひにはうこ給も
たりとゆきまにさろをきそし
とあわけまハ又
うらころもさろをまり海乃をとうハ
まりし義こんのち利(り)も清もらめ
となんあわけまハおりしまして又宇治へうわし
になんいくとの給ひけ海清海に
みうわするくわこ海やまのしうよわも
ひとりぬる夜(よ)そまひしうわける
よしい志といひけ家寧(さいやう)おのりうりうやまのと乃

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』　請求記号 WA7-196
ガラス使用

男をうしとおりふしち給乃こ里孫たや
ひと我の望まとおりひうむらん
となんこ利き後によそたりけるかくて心乃慮さ
てもなくあらまなまいと哀と思ふおとにおと
こハんかりわにけまハあわ志すもあらねハ
はくしふおやりうらなとあわけまハいきをる
我男もんかりわにけまえとくめてなん屋わけ
りと乃女なんも給ともふあわなるひりけまハ
うくていくす我いせかなしと思けは山さ記に
も給ともふいきそなんふるふのせなと志けはお
とこも来利かりこのうそなわとなんひとりひと
衆よ給はのすをいひうらひて法とめて私ふ

のわぬいまのそおとこもとのめハかへるなんとそ
くはまにのわぬあまもまいとかなしと思ふ
おとふ私に乃里好ひぬる人のふしをなんりてき
たるうくのうなんあわをる
ふさわこしみちともそこぬなんのうへを
おりひうけてもりへをめふかな
といへるけまハおとこもとのめもいとうう
何ほまうわなかりこきいそくいぬまとえ母す
なもをはくはまハふるれ山くをそえいうむふ
孫に乃利たる人ハ車をそるとそおもてをさし
おてこきけハと我くなるまるにあかハいとら
いさくなるさそそをこせけまハいせうなりうわ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

昔さい中将のみむすめに在次君と申ふりめなる
人なんをきる女ハ山蔭の中納言のみむすめ
の系のあとなんいひをはりけさいし君のいもう
との伊勢のかんのめまそいはをうわきるうりと
ついきてかんのかしうとみそあわけはなこのめ
のせうとのさいし君ハしきひてをむになんなわ
けは我のみと思ふこのおとこのりうりなんス
わひたるかしを嫌けるさわけまハ女のをとり
まひまなんと思ふあく後のうなしさハ
うきもううらぬもれまそあわけは
となんよこたわけふいまハ人なふるあとになわ
ふたる事なわ

このさいしきこさい中将のあはまりいきたわ
まるすやあらんこのあとのりく人れくまうよひを
なんはこしけふ心あはれまそ人の國のあらまに
んわうきと紀くくまそハ奇よんそうきはけなと
なんしをはおふさのむまやといふ所ハ海へん
ふなんあわをるそれふよこてうきはけたわをる
わさ川うんと人やんるらんあふしとの
なんたをふさりなきはめつまハ
みこのわのさまこいふむまやまそ
い川をとはまう様とたえてあきの東そ
才のまひしさハしわはさわをる
とよこてうきつをたわかはうくて人のくにはわ

きくてかいの國(くに)りいるまそすゝかなとに
屋まひしてしぬとて續(ようこ)たわきる
かわそめ乃ゆきかひちとそ思ひしを
いまのハかまわ乃かとてなわかわ
とよこそなんしにかな
はさいしきゝ乃ひと所にくしてしわたわかな
人みかはのくよよわ乃かなとそはむまやともに
やとまそはうこせをたそ手ハ見しりたわけまハ
みつかそいと何事とおりひきわ
事子のみか兄河庭(うまぢり)よおりしましにかわうまま
めに志語といふ物あわかわめしにはかりしかわ
けまハ氣まそさふらふかんたちめ殿上人みこ立(たり)

何きうこさふらひ給けまハ志もにとをくさふらふ
かうかなうにさふらふよしうこはうまつ門まと
おわせられけまは則よこそ奉わけに
たまちとわとひゆくかまわあわけまは
くをさつやまをあハとうこれ
兄續(ようこ)たわけまはいとうしこくめて竹ひてかはを
もれ給ふ
いのちさにあく語にかれにものからハ
なまかわかまの乃かるしうこまし
といふうたをこれ志語かよ見たるうたなわかわ
事子のみか兄とわかひ乃院(ひん)りおりしましに
かわまいのあとはあうひあわこのわかわうまま

先ともはまたまひ事てさふらふ中にて思もお
りし所くすしあはもれハ侍わやとせり勢殆ようす
まゝめりしのゆやう大江乃たまふらつむ也先と
いふりのなんめはしらう海いわて侍とゆけまハ
氣うわ殆てうへふめしあけ殆そもくく嫌りなと
とはせ殆にとわうひといふこいをよくはううま
はつ事さるんにしさうひてまゝとのことハおもか
さんとおかせ殆ひかわ所事てすなもち
　おさみとわうひあはりはあひぬまハ
　かすみなし孫とたちのかわかわ
とよむときにみかとのしらわあるまうわ殆て法
しかさまる殆人くもよく思ひたる程まて思いなき

いとふなくすゝかと法うちきひとうさ孫もうまゝ
殆ふあわとあはし上達アみこたち四位五位あまに
物ぬ義てとらせさらんりのハ座よわさち孫と乃
所ひけまはうさりしうわ上下人なかはきまハ
かつまはまわてふさまそうわはみてそおきさわ
要うくてうへ事殆とて南院の七郎君といふ人
あわかわそまなんじううまめ乃むむあたわに家
はくまてむとさしめしてそれになわの所ひ
あけはかまかゆさんる院に持うせよ院よわ
殆ハきん物もうれ七らう君うわはうハさむすへ
てかまにすひしきめなみせそせ物わせられけまを
はつゆになんとふらひうへ事ふるより

昔(むかし)の國(くに)にすむ女(ひとな)あるかゝるそれをよそふ男(ひとこ)二
人なんあるかゝるひとりハそれ國(くに)にすむおとこ性
ハむりうになんありけるかゝるひとりハ和泉乃国
乃人ゆかなんあるかゝるしやうハちぬとなんいひけ
るかくそそれ男(ひとこ)ともとしよハひかりさち人乃
かとたゝおかしさりなんきゝなんさし乃ちさ
らんにしうハあハめを思ふかんさし乃かとたゝ
おかしやうなるく海まハもあるともふきあひぬ物
をこすまハたゝおなしやうふをこをいふまさ
まさといふへくもあらを女思わつらひぬ此人の
んさしのを海かなるを以つまふをあふましけま
と見もかまも月日をへて家(いへ)乃門(かど)に立(うら)てよ海ほふ

心さし波みえけまえ志まひぬ見(こま)よりもかまより
もおかしやうまをこする物ともとりもいまゝ孫と
いろくふりちてそりおやありてかくみくう
しく年(うし)月波へて人のかけき波いさほうまおふ
もいとおしひとりくにあひなはいなひとりか
思ひハさんなんといふふ女あしふもさ思に人乃
んさし乃おなしやうなるふなん思わほうひぬる
さらはいかゝすへきといふにうれかみいくさ河
乃つらにひらりわ波うちてぬふかりしまハ
よはひ人ともをよひに屋っておやの乃いふやう雅(まさ)
をみんさし乃おかしやうなれハ此(この)おさなきもれ
なん思ひわほうひまそ侍(ちんなり)ふいふなまこれあと

をはらめてひあはハとをきおよりいはする人を
あはハあくなりうれいこはまかりあまり
もうれもいとおしきわき也といふ時にいへし
こくよ給こひ河へるゝやさんとおりひ竹ふろやう
そこの河にうきてさふらぬ水多をい竹へそれを
いあて給らん人ふをうんといぬ時ふいへよきる
なりといひていはをとまひとりハしらハこ
をいり今むとりハをのかこをいりそれかゝいは
まといふへくもあらぬに女ありひわつらひて
すゝまひぬわか男なけてんはれくまハ
いくこハうはハなハこなりけり
とよゝそしひらりをうはふハうまてしこりけ

まハはふりとおちいりぬおやあはそさしさハ
しるおとふしよりふ男ふこり屋のておかし所ふ
おちいりぬひとりハ河しをとらへいまのひとりハ
手をとらんてしにをわそれりみおやいしくさ
もきてとりあけてあなのこしわてはふりす男せ
の親もきにをわしし女ハはうハうにしこ又はう
せはくまておりうつむ時ふはハ国のおとこハ親
いふやうおかし国ハおとこ後あり同所ふはをめ
あとくふハ人のいりてしくふハ出をはをうすへ
きといひてさはたくる時りいりこの方ハおや
和泉ハくにの出後ふしにはこひてあくりて
きてなんはぬふうつ大そをるさまハ女ハおりを

ハなりまて左右になんおとこれ法とも以後も
何なりしろ事とも乃世しあわ々は我忍に
見なりきて故きさひ乃家に人のなわたわけ達し
あまりうへ我見なんと此人にかりわてよこ々は
伊勢乃法息所おとこのあ後まそ
かけとのこみ法乃志るまそあひこれと
たまなきからハかひなりきり
女になわ給て女一乃見こ
かまわなく姫かくし法めるわかた後我
うきたるひとり見えんりのうも
又家
いほこなりた後をもとめんわさ法こ乃
あくかしことも於もなくて
共傍乃命姫
法乃後をも後ともにこうちきわをる
あふとはひとにみえぬもれかし
いせ所の別当
うちまけもなくてやまてんきこにより
おりひくらふの屋まハこゆとも
いきたわしおわ女になわて
あふあとのうこ見りうふるなよたけ乃
たちわつらふときくそうなしき
又ひと
男をなけて何りんと人りちきら孫と

うきゆゑハ水ありけをなるへ川
又いまのひとりのおとこありなりて
おなしえりをむいうれしきなりなまと
なとわまをのゝちきらさりをん
ゑしをんな
うかりけるわかしをそこをおかうこハ
うゝはちきわれなりましうは
きるひとりのおとこふなりて
わまとのゝちきらはなりおなし江り
すむハうましきみきに堂そ思ふ
さて此男(おとこ)ハくれたけのよふりきをきまてかゝわ
てうわきぬなり海恵なりおひなとをいまてゆゑ

なるくひたちなといまそそうつみをる今ひとり
ハをなりなるあやまやあわをんさも世はそあわ
けなりれけりの名をはをとめけりとそいひける
あるたひ人此けりのりとにやとりたりけ海に人
のいけりひ事なをとの志けまハあやしとは思て
ゝせけまとさなるもあしといひけまはあ聞
と思ふ人ゝ孫ふりたるにちふ海見まる男(おとこ)まへ
ふきそひさまけまて我うさきにをめゝまてまひ
まそ侍りけりし志りしかへらん孫なる物
のむくひしけらんといふりおそ詠しと思へ
とりしてけわさめて差まやあらん堂思へとたち
ハ海あとにとらをそやわてをわとてりきけハ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

いとしうさ程乃あといさうふなりしあわて
もしめれおとこきそいとしうよ後こひてほとく
ふやし比様なるもれうちら後し侍わぬとよわ
いなりき後まりわとなりけるとてこの事の
りしめよりうさ後いとむく川をし世相もへとめ
はらしき事なきはとひきくをとに契もあけ
ふけまハ人もかしあしうふ見まハ侍れりとふ
ちなとなんなりれたりけるたちふもち付てなん
あわけ後いとうと後しくおかゆる事なきと人
のいひけ後まのくなり
後の國乃なりまその後りに家してをむ人あり々わ
あひしわて年比あり々わ女もおとこ立いと下

をゆはあらさわけまと年ころわたらひなとも
いとわろく城て家もこおまほりふ人なともとく
ある所にいきほくたくふたりすゝわる後かとふ
さひりふ下をふもあら様へ人にやとりまほけは
まもをほいとこひしかりわ後まのくふ思ひまひて
ふるりいひをるやうふ城いとかうわひしうてハ
えあらし男ハかくしうふくてのゝいまほりめ後
をみまてくそいりちえくえいく後し女も男
をまてくハいりちかいりんとのゝいひわたわけ
後をおとこをのまハとてもりくてもへなん女乃
かくわりきおとにかくてあ後なんいとくおし
き京よりのわりてしやほりへおもせらよ後しき

やうにもなりはわきをもとふらへをのきも人の
あともなりハかれられたつるとふりんなとを
くくいひ契てたよわの人にいひ法をて女ハ家
にはまをわさしもへいつこ共なくてきこきハ此
法をてこし人乃りとにゐていとゆきと思やわ
かわまのへにおきまくおいぞおかりなにになんき
かな風なとふきをるにかれ法の函を思ひ居わて
いかてあるんなとかかしくそよみかな

ひとりしていかりせましとまひつきハ
そよともまへ乃蘇そこたふる
ぞなんひとり　ちをるさそとかう女さすらへて
あなん人のやむあとなき所に家にそたわさへうや

法のひしゆわく程にさうそくきまけましむわ
りしおまなとをなくてきけきはいときまけに
かかりこちもかわにかわりきとかれ法の函を
りこはもすきをいぞ氣と思居わかわたよわ人
に女我法をて居わたわけきハさいふ人もなしす
なといともうふくいひ法きをわまるむつまし
うきまる人もなりけきハ心とをえ居ていと
おかれ法なくいりあるんとのミ思ひやわかわ
かゝなかとにハ家法の人するにのかにのうこう勢
殆て光かきあなん人をしはかひたまわなとする
中にハ人を思ひ竹ひかわ思ひ法をてめになりに
かわ思ふあともなくめてこけまそゐたるにたゝ

ひと志まを思ふ事ひとへなんあるかはいかに
してあらんゆしうてやあらんよくてやあらん我
あわ所もえ志らさそひとをやまてよろ弱させん
とまれとうるてわる男きてうるてあるさまに
をあうあまと弱んしけるあわわるを於いや
あるまにおかゆまは男にいひかはやうけ乃國と
いふところ乃いとおりしけるよいうてなるを
にりら無しうてらはうらんといひけまいいとよ
きる我をも弱ともふといひけまはそこにはな物
志るまひそをのれひとりはうらんといひていて
さちていにかわふにそふりらへしてかへるなん
とする時ふこのわるわにアるへ義あとなんあは

とそいまのまこしとやまりく屋まといひけるこの
なる海を屋らせける家乃あわ志わるわをアるに
やをなし人もなしいりるへいにまんとりあし
う思ひきわりる海心をへまそふわハへきれ空
わりむつましきまけもあしかるまはたつひさま
へまうるもあしいとあるまなまはくははるそ
てなりむるふとも乃人ハ白くれぬ無しとそ御
車うあしてんといふまとりしといふあとふ
あしまなひたる男乃うるひ乃やうなるすかる故
此くはまのまへよわいきまりあまりかか我アる
にうれ人といふへくをあらまいしきさはなまを
とまりおとこにまたわあまをそそよくアまあし

さふこの所しもちたるをのこより務よりれあし
りりんといふせをるさわけまはような物りひ
給とは思けまとしうの所ふるなれよひてり
りはくろまのをとちうくにあひよをさをよこん
なといひて此おとこのりかをよくえるうしそれ
なわかわいと所はまふりろ物あきなひて世に
ふる人いかなるんといひてなきけまはどをの人
は粉わかりこの世を気が海となん思をるかくて
此あしの男に物なとくはせよりのいとおかく
あしのあさひにとらせよといひけまはしく語な
なりのかなより物おかく給りんなとあなん云
けまはしぬてもえいひふくらていかてもれをと

らせんと思ふ男に下したまの人さ海のあきたる
よわ此男まもれはわかめふくたわあやしさに心
をさめて見るにかかもこ思をそれなわかわと思
ふ思ひあはをてまりさ海の人いかいらなく嫌たる
我ありひたりろにいかたしたなくて所しもうち
をてくりしりにけにかわしりといたをけまと
人の家にはけのてりまのしわへにりくまわおわ
きる此車よわな我此おとこよろ称てぬてあと
いひけまはともの人ひとてをあうちてかとめたは
さかわ人そこなる家になん給かなといへはこの
おとこおかく物なせしとあわてめはなわなに乃
うちひかせ給へ義ふをあらすりのをあうはなま

ハせんとすれたさなきものなりといふときり
すゝわをこひてふゝをりくそれに
きゝなくてあしりわかわとおりふにも
いとゝなまくのうらそすゝうき
とうなてふうしてあまを語くはまにをまといひ
けまはあやしや思ひてもそきそをるあけて見る
かなしきあと物ふくをよくとそ女をるさそ五
志ハいくしたわをんしらはなる風にきるりかふ
きぬぬ義て語くこそ女なとうきくしてやわをる
さそなん五わかは後にはいふく敵にをんしらを
あしからしとてあるひとのまかれけめ
なわかなまは乃うらハすゝうき

昔やまとの國りつくきのこかわにをむ男をかわ
此女かかりさらいときよう也舞比思ひかりし
てすむにこの女いやわろくなりにけまは思わつ
らひてかきわなく思ひなくらめ我まうかそをり
此今の先ハとみたる女になんきかはしとにおも
ハ孫といけハいくしういさりわ男乃さうかくも
いときようにせ所をけりかくにきくしきかに
なくひてきるまハこの女いとわ孫をまてねてか
くかうにあわけとさらに孫さけにもみえをなと
あまハいとあくまと思かわんちにもかまわなく
ねさくんうく思我志のふるになんあわをるとく
まわなんと思ふよを形いねといひかれわかく

あわれするをねたまふてあとわきするまやあら
むさるわさをしいうらむる事をあわなんかと
心の内に思ひけりさていそくいくとみえてをん
さいの中にかくまて男やくなとんまいたしに出
ぬて月のいといしうおもしろきにしらうい
けつわなとしておわ東ぬるまそすいとい
さう穿ちかけまそなりめけまは人まへかめわと
見るりはうふ人のまんなわをるにいひをる
うをふけハおきけしらなんさつたやま
夜もすやきかひとりこゆらん
光よみくれまううへ我思ふかわくわと思にいと
うかしう我ぬ此い後のめの家をさつたぬこ思て

けりたにかなんかわくなくて我みをりくれ此
女うちなきてふしてうかまわに水をいまてむ
にかなんすへさわくなあやしいふにけるかりあるん
とそかの我見るされを此れあつゆにたきわぬまを
ゆふてはみみつをいろ見るりいとりなしくて
もしり出ていうなる心ちしかへいかくをしふ
そやいひてなきいるきそなんかりをるかくて
かへもさうにいうてはとぬりをりくて月日
おかくへて思ひやなやうつまかなまと女
の思ふ事いといしきあとなわくなをかくい
うぬ我いうにおりふらんと思ひ出てあわしき女の
かわいきたわくわしくいうさわくれはしまし

くそこそりくわさそかひまめハ我(れ)ハはよくてん
えしっといとあやしきさ海なるきぬをきそおか
くしをつくくしてりさしかけてをまそ清くい
ぬりわをりをわいといくしと思ひてきこをるま
きふいかすなわよくわこの男(おこ)ハおかきこなわけ
り昔(むし)なくのみかゝ堂てり清うまつふう孫へあわ
くわりかかさらいくしうきようみそ人くよりひ
原上人(そんしやう)なともよりひけまとあハさわをわきこ海ハ
ぬ心ハ清門をかまわなくめてなる物よなん思ひ
をわをる清門めしてくわさそのち又をめ清くり
けまはかまわなくんうしと思ひくわよ海ひ家心
よかくまそおかゝ恩給清くこひしくまひ志う覚え

給ひくわみか堂はめしありと事とをおかされ
さまうふつ心ハはみえをるふ我世に如ましき心
ち志けまはよ海見そうよいそくさ海さハ乃池か
方をかけてをわかくかけまとも清門(かど)をえ志給し
めたくりをるをあとのつ升てあわてひと乃給う
しくれきこしめしてくわいといこうなりまう
り竹ひていけ乃かとりにおかゝゆきこ給て人く
ようこよませ給ふ　　うきの日と此人也
わきもこう孫くされかゝ見をさ海さハの
いけ乃た海りと見るそうふし義
とよめふときに清門(きよ)
さるさハ乃いけをはらしふわきもこう

たまもかつかはみつそひなまし
と読給ひけりさてこのいけにはかせさせ給ふて
なんかへらせおはしましけるとなん
おなしみかとたつた河のもみちいとおもしろき
を御らんしける日　人まろ
　たつた河もみちはなかる神なひの
　みむろのやまにしくれふるらし
御門
　たつた河もみちみたれてなかるめり
　わたらはにしき中やたえなん
とそあそはしたりける
おなしみかとかりいとかしこくこのみ給ひ
けりみちのくにいはてのこほりよりたてまつれる御鷹
世になくかしこかりけれはになうおほして御てた
かにし給ひけり名をはいはてとなんつけ給へ
りけるそれをかのみちに心ありてあつかりつ
かうまつりける大納言にあつけ給へりける夜
昼これをあつかりてとりかひ給ふほとにいかゝし
給ひけんそらし給ひてけり心きもをまとはして
もとむるにさらにえみいてす山々に人をやりつゝ
もとめさすれとさらになしみつからもふか
き山に入てまとひありき給へとかひもなし
このことを奏せてしはしもあるへけれと二三日に
あけす御覧せぬ日なしいかゝせんとて内裏に参

まうしおそ後志う思ひわむくれて立田山にやと
りぬくさのなりにあふわ我覚きしきそふきわ女
おそ後し覚思ふ事かまわなしまひしと思て
男のりのい面といふへをせて女夜けまハおとこ
たかしろ夜ゆふはけとりかうらう後も
さつたのやまりをりりへてなく
女也し
さつたかはいも称をさしてゆくみつの
ゆく和も志らぬわりあとやなく
とよこそ志ふかわいとあきまうしうてなんおとこ
いてきりちてなまけ後
昔大納言のむも見い覚うつくしうてもち給たわ

きる我後門にをらんとてかしけまを給まりを屋ふ
ちかうけかうまの後わかふうとねまてあわきは
人いかてか見きん此むも見我こそかわかうて
ちのいとうつくしけなるをこそ弟のる覚しき心
ふかくまそよ後ひまいとまひ愛屋まひまなわて
覚てけまはきちまやのさすへ来るなんをといひ
わくわけまハあやしけるそやいひておたわきる
をさ和心まうきして極くわもなくうまいてきて
るにのきてみちれ函へ和はせいもひはとも
いりけふかそいふかわあきうれこかりあけかの
ぬと云所ふいおわをけくまそ此女をすへて里ふ
出けく物なともとめてきけくくをせて年月を

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』　請求記号 WA7-196
ガラス使用

まうれいてふさへまそねたりあまた後形(みを)はよめ所
せりわていまくてしなぬ事と思ひてよりう
ぬ事をいひ侍りていまして ふうな山りまで
てたまひてよとのみせめけまをせめられまひて
さまてんと思ふなり月のいとあうなよれうなせ
いきたまへ寺(てら)よさうときつきまなるみせをうん
と云けまハかまわなくよ後うひてれ月まにかわ
うき山の姫りとにすまけまはそ山にかゝ人
とのてたうなやまのみまのをわくへくもあらぬ
にをきてふかてきぬ聞くといへといふへもをて
よかて家(いな)りまて思ひ後れおいひりうそかゝ
れわそうさちてりくしつまと年比ねやのあとく

聞しあひ侍りあひうひりけまハいとかるしく
覚(おか)しきわしの山のかゝんよわ月もいとかまわなく
おかくておたる後なりめて無ひとよいも祢らま
をかおしくて覚てけまはかくよそたわかな
わりあ後なくさめうひ川さうしあや
をはすてやまりて後月後うて
覚よそてなんよいきてむりへりてきまかゝそれ
よわのちなんをはまてやまといひかゝなくさめ
りうしとはあまりよしになんあわかゝ
下聖國(きつけ)よれとこ女すまわくわかとしまうすま
きは程よれとこめまうかて心かりわそ此家(いな)に
あわかゝ物せを今のめれうわかまさらひもそハ

こひいく心うしと思へと形させて見かわちり程
の物ものこさはみをもていぬたゝのこりたる物
は弘のこなんあわけ事それなこのおとこの
さ海からといひけれわらハ浮りをるしそ此弘
をさへとりにをこせたわこのまらハに女のいひ
をるきむちもいまハあくに乃えしりしなといひ
けまハおとてりさふらハさらんぬ志をハをはた
さふらひなんなと云そり女ぬしりせうそ
こきこえハやしてんやふまハよふ見給りしたゝ
あとにそやせよといひけまはいとよくやてん
といひけまハかく云きな
ふもいぬ海りちもみえしかふよわ主

うきよれ中をいかてわさらん
見やせといひけまは男にいひけまハ物なさふる
えいましおとこなんしかなからハよひ人して
りと乃あとくあからめをそうひぬにかふ
大和の國に男女あわかわ年月かまわなく思ひて
すまかなをいかゝ志きん女をえてかわ形もあら
をあの家にゐてきそりへを面さてすまてわか
かさふはさらよいひ主孫なます秋の夜乃なさ
にめをさ海して我けしりなんなきを海りのも
いにてきゝきわりへをへてたるおとこきゝ給
やかしこうと云けまハ何事といらへけまは此
あり乃なくハ字所ふやと云けまハさきゝ待わと

いろへ者わおとこさそそれをはいく中将ふと云
けまハをんなふといろへ々わ
わまもしらなれてそ人ありこひられし
いまゝこそよそりこえをのこさけ
堂よこたわけまはかまわなく先てこのいほの
女をはをくまてをとのあとなんすこわらわをる
うれとのゝ内侍といふいほすりゝわそれ我よ
しあわのおとゝとゝゝなんはゝすこ我々ほ
物をよくしおけまはにそともをなんあはけさせ
我々ほにあやたゝ我おかくけゝりしたわ々れくも
多のかんのあやはゆやそむへ来とやこたわし我
ともかくもの我り勢ねハえなんけゝうほつゝぬ

さゝめ歌ハらんとゝゝをわけまハ男法五事より
くもとりのあやのいろをもおもかえす
ひとをあひこそとしのへぬまは
堂なんの我へ里をる　よおかし内侍
在中将すこ々ほとき中将のをとに続て屋わ々ほ
あ来はきゝいろとほうせのふ来ぬまハ
むとのあく我もうたうはまゝわ
堂あわけまはなし
何さの堂我いろとほうをハふきぬとも
あ我をうましくさ歌なるねハ
堂なんいへ里々ほかくてまほをなりて後中ゝゝ
のりとよわきぬをなんまよをこせたわ々ほそれ

にあらさひなとする人なくていとこひしくなん
あはな城かなられしてまゐんとなんあわけまゐい
内侍御心りてあはことにこうハあなまゐ
大ぬさ丁なわぬるひとのかなしたハ
よはせ勢ともなくしかそなくなる
宅なんいひ居わたわ々はゆ中しやう
なり御ともなまゐらかえんまにとわて
ひさきんひとそぬさとしるらん
宅なんいひきる
左中将二条乃きさい乃家まるみかゆもはうう
まはわ給ひて今人におりしまし世はよハ
ひをわ々ふ時ひしきといふ物をこをてかくなん

思ひあらハむくらのやとに祢りしなん
ひし美りのかは袖をしはく主
宅なん乃給へ里きる也しを人なんすれにけ
御さてきさい乃家喜家乃女御とやのして大原野に
まうて給々わ御ともかんなちめ殿上人いとお
かく御うまはわきわさい中将もはううまり
りはまるまのあらわりなまらうおわにそ
里きわ見や志給ひておかかさの人と給く給りわ
て乃ちなわ々わ御車のしわよわまきる御ひと
への御そ渡り川けさせ給へ里々わさい中しやう
なまり御まのゝ丁
おかたらやをしかのやまもかふこうハ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

てあ為あとなまえいきもとふらひ給りたまへの
むくになんとふらひ々為あと日々ありきわさ
為にとり恐日なんあわけるやまひもいとをわわ
てうれ日になわよ々わ中(ちう)しやうのかとよわ
つまくといとしあく為のまひし義ふ
々ふハとはすてくらしてんとや
とてをこせたわよりくなわにさわとていとゐる
くなるなりハさて無事なともせんとするあとに
しふきわときていといらしうわ々わ三なんと
するあといまくとなわてよこさわける
はねふりみちとはうゐてきくしゝ覚
きのふ々ふとは思ハさわしし哉

覚よこてなんたえたてよ々わ
在中しやう物見にいてく女乃よしあ為々るまの
をとにたちぬしるをたまつ乃をさ為よわこの女乃
かかいとよく見て々わ物なといひりしきわ見
をうまつも無まてあしたるよこそ風わ々為
みををあらすみもをぬ人のこひしまゐハ
あやなく々ふやなりめくらさん
覚あまつハ女乃し
みもみををさまとしわてうこひら為
わかはりなんの々ふのなりめや
とそいへ里々為あまつらハ物語(めのうつり)すてもきるす也
わとこ女乃きぬをうわきそいは為乃めのうわいき

てさらにみえすものきぬを皆きなれてゐし
をこれをてそれにきしかわりも我くいへてをこ
も人我くにりいるほうにみえ人は物ともなわ
をはさわ人はときに女かくいひ屋わをる
いなやきしひとにあらせぬうこ語も
わり男にふきはうきりもそ語く
ふかくさのみ人也とやし人は語時即かねといふ
人いうしき時まそ語わ人わ
いと名このミまなんあわ人は志おひて時々あひ
をる女おもし内にきわこよひりなくあひん
とちきわたる衆をきわ女いさうけさうして結ぶ
をともをはめをさはして東やふけぬらんと思程

をとこをはめ我さはして東やふけぬらん也思程
にときやをとの志れきくりうしみつとや
人は我字ておとこのことにふといひ屋わをる
ひとあく語うしミはいはいたのましよ
也いひ屋わたわ人はおとこ語さそ
音ノよこゆやと孫そすきり人は
とそ語をそ屋わ人は志りしと思ひてうち屋はみ
人はおとに孫すきにたるになんあわける
かくて世にもらうあはものに覚え語うまはる
みり也かまわなくおかはきてあはおとにこのみ
り也うけ語はりうふわの衆語ともりしみ人は
かうまはわけなくなりにうれ衆よわこの言かね

う勢にくらはともたちめをいふなるんとて忘り
いあくりしこのとむまともをとゝろくにもきこえ
す先ハ三人なんあわきほをよ給しく思ひきほに
ハ粉世に面しとなん思ふとふさりにはいひくわ
うきもなく思てみせなとあほめにはちりうり
もさるくしなもふせさわきるにあとをうけても
いふく女もいふしとおりふへし我もえかくに夫
ましきんちのしくれよわふにこて係になんうせ
に業りともくもなきかくなん思ともいふさわ
きる事のいふしきるを思ひはくなまいふまま
てりつせの法寺にはめまうてよくわこのかねハ
法師になわてこのひとりをうちまて世をんせう

い我をこにひわわきそりはせの法寺にをこなふ
程になんあわくほあるつかれちうぬてをこに
へはこのをんなさうしにいふやうは人かくなく
なわにたるをいきて世にあほ物ならはいほひと
さひあひこせ御へ男をかけこにたるもれならハ
うれみちなし所へこそなん思ひたるともこの人
のあらんやうを夏にそもうほくにてもきゝん
せ所へといひてわりさううくかゝしもおひたち
まそ見にを程にしくわみほうもゆ主屋らす
に夫くわたしめをなる人のまうてたるならんと
きゝぬたるわりわうゞへをかくゆほくわかさう
うくなとをかくをきやうにする我見るにんもき

世にうをりくれ所ひ[illegible]ハいとなんかれしき
なとかぬんやしにをこうひ給ともあくにゐに
せうそこものたまり恩我をんさやくあ[illegible]所に
もをとりし給ハさなれハいとあらまになんな夜
わふなるいうなる清心まてうりハりの志給らん
覚えこえまとてなんおもをられ待ることしこ
たつひをわてなんまひりさ待るといふかね大徳
うちなまて給ことしこまわて取りぬみかとり
くれ給てしこき清かけになるひてれりしまさ
ぬ世りしたりしもあわぬへ美んちりし待らさわ
しかハりしかやまのすゑにもこりわ待わてし
なんをこまそとおりふ給ふる我まるなんかくあ

座しきあといいきめくらひ待いともしこく
とり勢所へる事わらりんの待るまハさらに
まれ連待ときも待らはとて
かまわなまくを弁乃よそにまうかとも
ひと我ら後りをくらさむやハ
覚なんや々所とけいしたまんといひ々所此
大とくのかかあらちをうさをえるりかるしき
事ものにすうれ人にもあらまうけのあとく
になわてたくこのをのこなんきたわけるかねに
てあわし時の清まのいゝ覚きまけなわ志を思ひ
いそくなんたもとまうさわかわりかしとてを
かさときんのゐるへくもあらぬ山のおく嫩々れ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

なくしくさらはといひてかへるさそこの大とく
たつひいそくあわ侍るよしをりんのくたわけい
をさせかわささいのあもいといこうあ夜なまふ
さふらぬんともいらなくなんなきあるまうわけ
ほあの侍五わも人くのせうそこもいひ侍そ又
やまりかれ侍わしとこ後ふもみなくなわり
かわをのくこまちといふ人正月りきよみつふ
まうてにかわをこるひなとしてきかまあやしう
こうときかう卿のこえまそ宅程したらにふこ
ものをのくこまちあやしうわてつまふまやう
まそ人後屋わてこせけまハみのひと同後きて後
法しのこしふハうちけなとゆひ侍をたるなん

すこまねたるといひかわかくてふ後きかまこえ
いとこうとくめてこうきこゆまハたくなるひと
ふはよもあらしかね大徳まやあるんと思ひ
まかわいくいふとそこのこそらになん侍ると
いとさむきふ侍そひと同しりし所へとそ
いそのうんふたひ孫をすまハいとさむし
こけのら後をわまふうさなん
宅いひ屋わたわかな屋事なり
世後そむくこけのこ後もハたくむとへ
うさねハうとしいさふたわ孫ん
宅いひたるにさらふせうしやうなわかわと思ひ
てたくふもかくさらひしし中なまはあひて物も

いりんと思ていきけまはりいけはやうにう勢ふ
きわひとてらりとめさせれとさらふくそうせ
にくわかくてうぜにきる大とくなん僧面まそ成
て花山といふ法寺にすゝ所ひくふうくふいまに
うわきなは乃子ともはわくわ大高左をね監まそ
夜上してわわくなかくよにいなをうわと字時た
にとて母も屋わけまはいきたわけまはいかう師の
こいはうしあるそよ或とてあまもかうしふ
なしてくわかくてなん
おわつまはいたふさりけうなこそなうら
みよれなとけまたふこそまつふ
といふもきうしやうのはうこふなんあわくなこの

こ成をしかしさうひくなる大とくいんにもあらて
成たわくれ親ふもにす京ふもかよひてなん立あ
りきくなこの大とくの志うく成ける人のむしを見
の内にまらんとてしはなきる成みそうふうこ
らひてくわおやきこ法きて男成を女がもしけふ
をいこしういひて此大とくをよをを成にくれ山
ふわうしてゐてゐのうよひもえをさわくわいと
久志うきて此法ハうまを志せうとたなとなん人の
わさ志よ山ふのかわたわけろ此法乃を無所にき
て物語なとしておやすゝたわけるにきぬ乃くひ
にうきはきをる
志らくものやとおこひまそをくまぬふ

おりひ乃かうまある世なりせり
宅のきたりをる後これせうとの兵衛乃督ハえ志
らて京へいぬいそうと見にかそあるまとや思ひ
をんあまをせうほになりてこゝやうこく乃せうほ
といひてなんいまはりをる
せうしうと称りなりをる人おかうわ乃ゝてくら
ほうひにやまとのくにくらりかり手と云
わらわよきよけなる人此家より女せわらりへ出
きそこれいく人を見るきるなけなき女いとおか
しけなる子をいるきそかせ乃ゝとにそりこの
ちこれかれ乃いとおしけ後けまハめをやらめ
てそあくちぬてあといひけまはこれ女より来り

ちかくて見るに此とおしけ後けまは言ノあと
おとこし程なわまよあひ竹へおかきる後おりん
程に来りこんといひて見をしるみすし竹へとて
おひ後ときてとらせかりさそこの志たりをるお
むをときこりてもたりをるふゝりし衣装ひて
もたをていぬこのあとも六七ありありかり
男いろこれみなりをる人なまハいふになんあり
をるあまは後此こハまはます思ひをたりかり男ハ
こやうわすれにかりかくて七八年ありあり
てよおかしほうひにほうまそやまとへいくとそ
手手乃わらわに屋とまそぬてみまハまへり
ぬなんきかほそれにかくむ女せあなるいふやう

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

あまひら乃寄まれ中ぬりものしさまひをるは
夜武アロ家乃別当しさまひけまはつゝにまいり
なまてこたちもうさらひ給をりそれきゝ内より
海うて給をはまゝに風になんあひ給てわつらひ
給をりとふらひかくすりのさけ御なとして
兵衛乃令姫なんやわたまへ給ひあさましう
かゝ不やまひを御くもれりなんありをるとて
あ我屋きのいとなら孫ともり御りせの
ふけハかゝよ御わす者なりけり
宅あまハ兵衛乃令姫也し
いしくめりふくりをすやハあひくつゝ
乃わきすくしきゝすやハあらぬ

いまの乃左のれ宅かねよりの志所ふをるときに
しきふきやうの家につゝにまいり所ひけり
しやにやまぬくいふ人さふらひをるをもれなと
所ひけまはいとまわなくゝのひ人まて女以と
おりしうめてこしと思ひをりされとつゝにあふ
あとかゝりけりやまと
ひと志まぬあ後乃うちにもゆ御火ハ
けふりをたくてくゆりあうすま
宅いひ座わけまハ也し
ふしの孫のたえぬ物りひをあ御もれを
くゆるそつゝきあく後なりけり
宅ありけりかくてひさしう乗り給ハさりをる

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

人々とひかはりゆきる
　ちくらなる見ゆもなくきしをあらふめり
　　なまさきよくハきゝとまれかゝる
空よめるかれあまりめて語ふてなんとまわて
人々ゆもの所ひてかへしを所ひきる
よしこゆ乃むきちこ乃かねものへけみちり
ゆ条わらすてあいこうゆりかれあまたるかと
にさちかくまそ見いなまハみきんちりなるひ
わさや乃志もりけら屋くらなとあまとおと人
なとみえをわゆゝいわて見まハりし乃ゆにひめ
いとおりしうさ記たわうくひをもなく人あわた
みえぬみを乃内よわうをいろのきぬこまきぬの
うへおきそさけたちいとよきかとなる人のかゝ
さけそりなるんと見ゆなる
　よもきおひてあまたるやとをうくひを乃
　ひとくとなくやたまとりまるん
空ひとりこ川かね
　きこまともいひしなまねハうくひすの
　君りはをよとおしへてそなく
空おりおりしうていへは女おと語きそ人もかし
と思けるにりのしきさゆ我みえぬるすと思ひ
て物もいりはなわぬおとこえんにのかわてゐぬ
なとりりの此なまり思はめ乃まわなく待つまハ
屋むまそハかくてなんといへはおかちよわハも

りさわてなんことハ中ノくといふへくわとき
ハ正月十日乃おとゝあわくわ正乃うちよわ志とね
さしいてたわひさよをてゐぬ正たまもへるいう
ハおわにくハまそ所こなしうち乃志ほらひ見へ
まハ首(びし)おかえてたゝ見なとよりわけまとくちお
しく殘にくわやうくくれぬまはやをらす志
りいわて此人をとくかもいまを女く屋と思へ
とせいすへきやうをなくていふひなしあめそ
泉ひとよふわあかしてスの法とめてそすこし
そりまたる男ハ女乃いらんとはるをたゝかくて
とていまを日もたゝふなれハ志の女乃ゆやかね
よあ所しをへきさのなりけまはこと称り

わらハたゝりかゝめたわ業るにかさいしかけり
なましてさけをのませてせうしやうかはひ泳き
庭よおいたる家後はえてひし物といふ物かして
ちやわんりわてたしかはひめれ花乃さかわ
なるをおわてそれをふひらにいとおしけな所
をんな乃手まそかくりくわ

君りこめら泳りのすそ後ぬらし法く
ち所乃聖にいてゝ法めふわりなそ
おとこあまをみるにいと所りまたり覚して衣衣
よをてとふ女まわなうりはし世ねりひてかし
たわかねおきてことねりわらハをりしうをてを
あちちく所ますてまめなるもれさ所くふもそ

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

きたりむ人ふ人あまは今又も海いりこんとて
おぬそれよりのちたえすみけらもきとふらひ
まりよ後ほ乃もれくへとも物ふ系よてかわし
物めほらしうめてたりわきと思ひいてをる年
月(つつ)後へてけらうまけわし君又かねをくれなわ
てりいらん世後こしと思ひて法師(ほうし)になりに々わ
りとの人乃りとまけさあらひにやうとて
志もゆきのふるやのなりけりひとり孫の
うつふしそめ乃あされけさなり
をなんありをる

大和物語下終

柘原家蔵

旧請求記号
195-42

国立国会図書館　タイトル『大和物語 2巻』 請求記号 WA7-196
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『大和物語 2巻』　請求記号 WA7-196

ガラス使用